

	質 問	回 答
1	ワークショップ回数は提案次第であり、仕様書の数字はあくまで最小限という理解でよいか。	6回の開催として提案をお願いします。その上で、現実的かつ効果的な提案として、見積上限額の範囲で追加開催を提案される場合には、「創意工夫」としてご記入ください。
2	本業務で求められる成果は何か。	「むらの減築」に向けた具体的な行動計画の住民合意の形成と、その手法のマニュアル化です。
3	来年度以降も見据えた提案でいいのか。	来年度以降の実施を想定しない形で提案してください。
4	仕様書の集落の人口は、1集落又は1地域全体か。	地域全体です。
5	合意形成とは、参加者での合意形成をいうのか、母体である地域での合意形成を指すのか。	話し合いの主催は地元の協議会であり、まずは協議会での合意形成を目指します。最終的には地元自治会の合意が目標となりますが、今回の企画提案においては、到達可能な合意形成の目標を定めて提案してください。
6	ワークショップの実施曜日や時間などの指定はあるのでしょうか。	参加者が集まりやすい日時として、土・日・祝日の昼間を主に想定しています。
7	感染症拡大に伴う事業中止の判断基準として、どのようなものが考えられるか。	中止の判断基準については、現在検討中です。また、中止の判断に関する関係者との調整は、発注者において行います。
8	ワークショップの運営を中心としながらも、企画提案の段階で個別ヒアリングの実施について盛り込んでもよいか。	貴見のとおりです。なお、個別ヒアリングに変更される場合、ワークショップ開催6回に相当する内容として、見積上限額の範囲で提案をお願いします。
9	本業務において、行政職員が深くかかわることは想定していないのか	府・市町村ともに企画段階から協議に入り業務全般にわたり関与しますが、ワークショップ等の企画運営について中間支援的に関わる事業者を今回募集するものです。
10	対象22地域が選定された背景を知りたい。	今回対象としている2地域は、人口減少が特に進む府内農山村地域の中でも、長期にわたり地域づくりの取組を重ねてきました。そのような中で、従来の活性化とは異なる視点でむらづくりを考えてみてはどうかとの思いから、今回のワークショップの実施に至ったものです。

11	対象22地域の地域資源が詳しく紹介されているサイトがあれば知りたい。	対象地域の名称や所在等については、本プロポーザル終了後に、選定された候補者に開示することとしています。そのため、対象地域の資源についての回答は致しかねます。
12	企画提案仕様書3(1)オの参考資料の入手方法を知りたい。	募集要領4(2)イを参照の上、第1-1号様式を提出してください。
13	ワークショップにおいて、外部講師による講義回数の制限(最小、最大)はあるか。	外部講師の人数や回数の制限は設けません。本業務の効果的な実施のため、必要に応じて設定してください。
14	企画提案書は10ページ程度とされているが、両面で10ページ(枚数換算で5枚)という理解か。	貴見のとおりです。なお、このページ数は目安であり、多少の増減がある場合も有効とします。
15	6回のワークショップは、1回ごとに完結なのか。各回で参加者が異なり、住民間で理解に偏在が生じてもよいのか。	6回全体を通して、最終的に地域住民全体での合意形成が図られるよう企画提案してください。
16	企画提案仕様書3(3)ウにあるアンケートの実施は必須か。	必須ではありません。6回の住民ワークショップの中で、より効果的・効率的な企画提案をお願いします。
17	成果品の納品部数や形式はどうか。	運営マニュアル案は、編集可能なファイル形式で電子媒体にてお願いします。業務完了報告書は、正副各1部とします。
18	消費税免税事業者も、納税証明が必要か。	必要です。
19	当団体(特定非営利活動法人)の理事を外部講師等として委託料から謝礼を支払うことは可能か。	謝礼の支出については、御社定款等の定めに従ってください。
20	委託対象経費として認められないものがあるか。	本業務の実施に係る必要経費を積算の上、価格提案書としてください。
21	価格提案書において、自家用車を使用する場合のガソリン代について京都府側で想定している単価はあるか。	価格提案書については、提案者が見込む所要額を積算してください。
22	企画提案書作成要領2-(3)イにある「参集範囲」とはどのような想定か。	例えば、参加対象者を「全住民」「他出者も含む」「若年世代に限る」とする等、プログラムの趣旨に併せて提案いただいて結構です。

23	既に行ったワークショップにおいて、地域側の受け止め・姿勢はどのような状況か。	両地区とも、これまで10年以上にわたり地域づくりの取組を続けてきており、地域の主要役員においては長期的な視点で取り組む意識を持たれています。一方で、参加者それぞれの意識には差があるという認識です。
24	既にアナウンスされた次回ワークショップの内容は前提とする必要があるか	京丹後市での次回告知は、緊急事態宣言発令に伴い中止となった令和3年2月実施予定であった回の内容です。そのため、必ずしも告知内容を前提としたプログラムとしなくても結構です。 京丹波町においては、このようなアナウンスはありません。
25	ワークショップのメンバーは既におおよそ決まっているのか（昨年度のメンバーなのか）、あるいは新しいメンバーを選ぶところから対応可能か。	京丹波町では2集落を先行地区として進めており、先行2集落の全住民及び他3集落の役員を対象としてチラシにより告知しました。今後の参加対象者については別の形として提案いただいて結構です。ただし、過去2回のワークショップの続きを新型コロナウイルス感染症の影響により開催できていない経過があることから、前回までの参加者に対しても何らかのフォローは必要となります。 京丹後市では、「10年後、20年後の地域活動を考える」という趣旨に即して、50代以下の住民を対象を絞っています。将来的には全住民向けに広げる必要があると認識していますが、参加者からは「当面の間は引き続き50代以下を対象として継続したい」という意向を伺っています。